

ビワ生育情報

第 8 報
千葉県農林水産部
令和 8 年 5 月号

5月1日時点での幼果の発育は、「楠」、「大房」、「田中」とも平年より早く、収穫期は平年よりやや早い～早いと予想されます。収穫の準備を早めに進めましょう。

果実の発育

5月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が3.39cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.20cm、3.09cmであった。平年と比較すると「楠」は113%、「大房」は105%、「田中」は112%であった。

縦径は「楠」が3.84cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.42cm、3.51cmであった。平年と比較すると「楠」は117%で、「大房」は108%、「田中」は113%であった。

果形指数は「楠」が0.88、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.94、0.88であった。本年の果径は「大房」、「田中」は平年並み、「楠」はやや縦長の傾向がみられる。

果実の発育は、3品種とも平年より早く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は平年よりやや早い～早いと予想される（各品種の平年値は前年の7月号を参照）。十分に肥大する前に着色が始まる場合もあるので、収穫適期を逃さないよう注意が必要である。

表1 果実の発育（5月1日の果径）

品種	調査地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	3.39	3.01	3.27	3.84	3.30	3.63	0.88	0.92	0.90
	青木	3.28	3.05	2.52	3.55	3.17	2.71	0.92	0.96	0.93
	南無谷	3.14	3.07	2.97	3.31	3.20	3.48	0.95	0.96	0.85
	暖地園研	3.17	2.99	3.00	3.39	3.11	3.11	0.93	0.96	0.96
	平均	3.20	3.04	2.83	3.42	3.16	3.10	0.94	0.96	0.92
大房	青木	2.90	2.72	2.20	3.38	3.05	2.62	0.86	0.89	0.84
	南無谷	3.01	2.75	2.94	3.40	3.10	3.11	0.88	0.88	0.94
	暖地園研	3.36	2.81	3.06	3.76	3.15	3.45	0.89	0.89	0.89
	平均	3.09	2.76	2.73	3.51	3.10	3.06	0.88	0.89	0.89
田中	青木	2.90	2.72	2.20	3.38	3.05	2.62	0.86	0.89	0.84
	南無谷	3.01	2.75	2.94	3.40	3.10	3.11	0.88	0.88	0.94
	暖地園研	3.36	2.81	3.06	3.76	3.15	3.45	0.89	0.89	0.89
	平均	3.09	2.76	2.73	3.51	3.10	3.06	0.88	0.89	0.89

果形指数：横径／縦径

平年：平成8年～令和7年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和7年の28年間の平均、なお、令和8年から調査圃場を変更

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入しており、平年比は表示単位未満を含めて算出しているため、表中の数値から計算した値と一致しない場合がある。

令和8年4月の気象

令和8年4月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第1～第6半旬で平年よりも高く推移した。月平均気温は16.6℃で、平年より2.1℃高く、前年より1.1℃高かった。

降水量は第1、第5、第6半旬は平年より多く、第3半旬は平年並み、第2、第4半旬は平年より少なかった。月合計は211mmで平年の135%、前年の118%であった。

日照時間は第3、第4半旬は平年より多く、その他半旬は平年より少なかった。月合計は154時間で平年の87%、前年の89%であった。

表2 令和8年4月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	15.1	12.5	10.2	88.0	28	87.0	19	30	15
2	16.1	13.4	15.2	20.5	28	5.5	25	30	33
3	18.1	14.1	15.5	27.0	27	44.0	35	29	26
4	16.2	14.9	17.8	7.0	26	0.0	38	28	36
5	16.6	15.6	17.7	29.0	24	30.5	16	30	23
6	17.3	16.4	16.4	39.0	23	11.0	21	31	42
平均/計	16.6	14.5	15.5	210.5	156	178.0	154	177	174

平年：平成3年～令和2年の30年間の平均

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

6月の作業

例年であれば6月前半には梅雨に入り曇雨天の日が多くなる。5月から収穫が続き、晩生の「田中」でも6月中下旬には終了する見込みである。品質の良い適熟果を出荷し、市場や消費者の信頼を得るように心がけたい。

果樹カメムシ類の予想発生量は中発生とされている(令和7年度病害虫発生情報 第4号)。カメムシ類が飛来する量や時期は地域やほ場により差があるので、飛来量が増える4月下旬以降に園内外をよく見回り、飛来がみられた場合には、千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って防除を行う。

夏肥(礼肥)は収穫後の樹勢の回復及び夏枝の伸長と花芽分化を促すために必要である。収穫直後に速効性肥料を施用する。10a当たりの施肥量(成分量)は、耕土の浅い園で窒素5kg、りん酸4kg、加里4kg、耕土の深い園でそれぞれ5kg、3kg、3kgを目安とする。

台木は、梅雨明け前に発芽させるように、播種を早めに行うことが肝要である。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>